

事業活動報告 事業所名 居宅生活支援部

1.利用者、職員等の状況				
	ホーム名	利用者数	職員	キーパー・ヘルパー・介護人
グループホーム	あゆみ荘	男性 4	<正規> 男性 2 女性 3 <非正規> 女性 44	男性 5 女性 3 (夕食作り)
	つばさ荘	女性 4		女性 4
	ホームすみれ	女性 4		女性 3
	ホームたんぼぼ	男性 4 / 女性 3		男性 5
	ホーム菜のはな	女性 5		女性 5
	ホームたけのこ	男性 4		男性 4
	ホームひまわり	女性 5		女性 5
	ヘルプ	ゆめネット 居宅介護 ガイド		居：23人 (月平均) ガ：20人 (月平均)
ショートステイ 日中一時支援		ショート：21人 (月平均) 日中一時：40人 (月平均)		女性 4 男性 3

2.2016年度 事業所方針

<グループホーム>

- ①ホームの生活を充実させる取り組みを進めます。
- ②ホームに泊まるのが難しいメンバーが、気軽にホームに来ることができるような取り組みを考えます。
- ③暮らしの場で働く支援者が、働きやすい環境を整えます。

<ホームヘルプ>

- ①地域の様々な事業所と連携しながら、障害のある人の生活の質の向上をめざします。
- ②ヘルプサービスの質の向上をめざし、多様なニーズに応じていきます。
- ③地域で暮らす障害のある人の多様なニーズに応じていきます。

<ショートステイ・日中一時>

- ①安心・安全・快適に過ごせる場作りをめざします。
 - ・障害特性に応じた場作りを行ないます。
 - ・関係機関やご家庭と連携をとりながら支援を行ないます。
- ②安心・安全・快適に受け止められる人づくりをめざします。
 - ・学習の機会を設けます。
 - ・危機管理マニュアルの作成し掲示します。
 - ・介護人が支援しやすいように丁寧な引き継ぎをします。
- ③地域のニーズに応える場作りをめざします。
 - ・様々な事由による利用希望に幅広く応えられるような「場」づくりと支援体制の充実を図ります。
 - ・他事業所とも連携し、適切な場で適切な支援が受けられるようにします。

3.実践内容について

<グループホーム>

- ・昨年3月に亀岡共同作業所時代から在籍されていたメンバーが73歳の生涯を閉じ、永眠されました。高齢になられ、意欲の低下や体調を崩されることが多くなり、通院も増えていきましたが、最後まで笑顔で人と関わることが好きな方でした。ご冥福をお祈りします。
- ・65歳を迎えて、介護保険の認定をされた方が何名かおられました。特に、居宅介護サービスを利用されている方は、慣れたヘルパーの交代や利用料負担が深刻です。介護保険分野とも連携しながら混乱なく移行できるように進めていきました。高齢になっても安心した支援が受けられるような制度が必要です。

<ホームヘルプ>

- ・相談支援とも連携し、地域の皆さんの要望にできるだけ応えられるように努めてきましたが、ヘルパー数が少なく応えられないこともたくさんありました。ヘルパーの確保が急務です。
- ・月1回、ヘルパー会議を開催し、支援について情報共有やスキルアップにつなげました。

<ショートステイ・日中一時>

- ・後半期も新規利用希望者の受け入れを行ないました。ご家族から「ようみてくれはる」と、次の申し込みを頂いています。
- ・日中事業所や他機関と連携し、利用者の健康状態の把握に努めました。

4.次年度への課題について

<グループホーム>

- ・個別支援計画を基本に、支援の統一や記録の充実に努めます。
- ・メンバーの希望を聞きながら、お楽しみ会などの計画を行ないます。
- ・キーパー会議を2ヶ月に一回開催し、支援についての方法や意志統一を行ないます。
- ・新しいホームの整備にむけて、具体的に前に進める1年にします。

<ホームヘルプ>

- ・個別支援計画を基本に、記録の充実に努めます。
- ・毎月1回のヘルパー会議を定期的に行ないます。
- ・スキルアップのための学習会を行ないます。
- ・ヒヤリハットの積極的な検証を行ない、事故を未然に防ぎます。

<ショート、日中一時>

- ・利用者の皆さんが、安心して過ごせる場所や人の確保を行ないます。
- ・介護人へ各種会議への参加を呼びかけ、支援についての情報共有や学習を行ないます。
- ・地域の事業所と連携して、制度の充実ははかります。

*2016年度は、事故や苦情が何件かありました。2017年度は、ヒヤリハットの活用や、権利擁護委員会の学習を生かし、事故を未然に防ぐことや人権について、考え実行できる1年にします。